第４２９回鉄鋼流通問題懇談会

２０１４年5月２１日（水）１４：３０
霞山会館・松雪

議　題

１．配布資料説明（全鉄連）
２．全鉄連情勢報告
（１）地区の状況
〇東京、大阪、愛知、東北、新潟、富山地区概況報告
（２）その他地区の概況
〇鉄流懇５月例会で発表の各地区景況などアンケート結果
（３）総括：齊藤全鉄連副会長
３．意見交換
４．経済産業省挨拶
５．鉄流懇会長挨拶
６．その他

〇次回以降会議予定
２０１４年8月　　日（　）１４：３０　～　　於：

鉄鋼流通問題懇談会　品種別動向について（２０１４年５月）

発表項目＼発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	メタルワン	住友商事	阪和興業	メタルワン
１．需給動向（景況感）	建築向けの一服感から、4 月以降、市中の鋼管製品の荷動きは低調となっている。市況については、夏場以降に荷動きが回復するとの各社見通しからなんとか維持しているものの、コラム・中径角については一部安値も見られる。但し、メーカー各社は、母材コイルのタイト感から強気な価格姿勢を崩してはおらず、市況が大幅に下落する可能性は低い。溶協メーカーの生産については、雪害による農ビ管の増産、太陽光発電架台及びホームセンター向けの足場管出荷が好調で生産は総じて堅調の様子。	2014 年 3 月末の薄板三品在庫は 410 万 6 千ﾄﾝ（前月比 11 万 8 千ﾄﾝ増）と 2013 年度中最大量となった。反面在庫月数は 2.02 カ月（前月比 0.3 ﾎﾟｲﾝﾄ減）と、2013 年度中最も低い水準となった。鉄鋼メーカーからの母材出荷が促進された一方で、消費増税前の駆け込み需要が高まり需要家向け販売が促進されたことが背景にある。2014 年度第 1 四半期は、駆け込み需要の減退期ではあるが、多くの鉄鋼メーカーでライン定期修理も計画されており、在庫水準は同期中に再度減少に転じるとの見方がある中、需要分野の活動水準がどこまで高まるかに注目している。	3 月の全国厚中板在庫量は 383,181T で、前月比 4,650T の微増。在庫率は 190％で、前月比 9.6％減。出荷量は 201,733T で、前月比 7338T 増。（前年同月比 125.8％）。4 月に入りｼｬｰﾘﾝｸﾞ業者の稼働は一服。下期から始まる大型土木案件に期待。	棒鋼　関東地区の丸棒発注数量について、1-4 月は 16 万ﾄﾝ/月(推定)と前年同期比約 30％減のレベルで推移にて、足元は発注の端境期に入っている状況。 形鋼　H 形鋼に関し、1-4 月のときわ会ベース東京地区出庫量は 15.9 千ﾄﾝ/月と、前年同期比ほぼ同水準なるも、直近の荷動きのピークであった 10-12 月対比では▲15%と減少する中、盛り上がり感には欠ける状況。4 月末市中在庫はときわ会全国ﾍﾞｰｽ 229 千ﾄﾝと 5 ヶ月振りに減少に転じており、5-7 月にかけて一段の減少が予想される。
２．需要産業動向	建築向けの一服感から、4 月以降、市中の鋼管製品の荷動きは低調となっている。市況については、夏場以降に荷動きが回復するとの各社見通しからなんとか維持しているものの、コラム・中径角については一部安値も見られる。但し、メーカー各社は、母材コイルのタイト感から強気な価格姿勢を崩してはおらず、市況が大幅に下落する可能性は低い。溶協メーカーの生産については、雪害による農ビ管の増産、太陽光発電架台及びホームセンター向けの足場管出荷が好調で生産は総じて堅調の様子。	2014 年 3 月の四輪車国内生産台数は 94 万台と高水準。消費増税前の好調な販売が最大の要因。4 月以降も乗用車の在庫補充や需要自体が堅調なトラックに支えられ例年のような期初の落込みにならないとの観測もある。3 月の新設住宅着工戸数は 6 万 9,411 戸となりついに前年同月比 2.9％の減少となった。リーマンショック以降消費マインドの改善等もあり緩やかに持ち直していた傾向が消費増税前の駆け込み需要の反動もあって減少に転じたもの。今後は雇用・所得環境の推移、震災復興の状況、建設労働者の需給状況、住宅ローン金利の動向などを注視する必要がある。 尚、住宅着工に連動していると見られるエアコン、電子レンジ、冷蔵庫、洗濯機は 3 月も前年同月を超える生産・出荷となった。	3 月末造船手持工事量は 2772 万 GT で、前月とほぼ変わらず。3 月の建設機械出荷金額は 2,797 億円で前年同月比 11.7％増。建築関連においても好調継続で、FAB の山積も膨れ上がっており年内仕事量確保、また選別受注の状態継続。	棒鋼　2013 年の新設住宅着工戸数は 98 万戸と対前年比+11％となった。又、2013 年のﾏﾝｼｮﾝ発売戸数は 10.5 万戸と同+12％となった（不動産経済研究所による）。2014 年について、当初は昨年同等の需要水準も見込まれていたが、価格上昇等の要因により足元は下方修正の可能性も出てきている。 形鋼　土木に関し、東北・東京・四国を中心とした港湾・河川の整備工事は今後とも順次発注の模様。 建築に関し、2013 年度の鉄骨需要量(推定)は 541 万ﾄﾝと前年度比+13％となり、今年度も同等以上の需要が見込まれる。
３．輸出入動向	自動車分野は、消費増税の反動で 4 月以降やや落ち込んだものの、トヨタ自動車の国内生産台数も 6 月には 1 万 3 千台としており回復は早い見通し。建築・土木分野については、年明け以降人手不足や配送能力不足により案件が停滞していたが、夏場以降様々な大型プロジェクトが始まる見込みであり、荷動きは着実に回復していく見通し。造船分野おいては、13 年度の国内造船会社の受注実績は前年比 76％増の 1,649 万トンと 6 年ぶりの高水準となっており、14 年度も出荷は期待出来る。建機向けについては、震災復興工事・インフラ整備を始めとした公共投資の増加により国内向け中小型建機は好調の見通し。	2014 年 3 月の薄板三品の入着量は 32 万 6 千ﾄﾝと高水準。2013 年 4～12 月の平均入着量 26 万 3 千ﾄﾝに対して、2014 年 1～3 月の平均入着量は 32 万 1 千ﾄﾝとなっている。 国内鉄鋼メーカーからの出荷が滞りがちだった 2013 年度第 3 四半期以降、韓国・中国からの熱延薄板類や亜鉛めっき鋼板が期初比で数量を伸ばしている。増加する輸入材だが、足元の為替環境下の価格設定では市況への影響は限定的との見方が大勢を占めている。 2014 年 2 月の普通鋼鋼材輸出量のうち熱延鋼板類は前年同月比 21％減の 80 万ﾄﾝ、冷延鋼板類は同 21.7％減の 22 万ﾄﾝ、亜鉛めっき鋼板は同 0.1％増の 32 万ﾄﾝ。地域別では中国向け及び米国向けで増加したが、景気減速が続くタイを含むアセアン向けは前年同月比 18.5％の減少（5 カ月連続）となった。	3 月の輸入通関 78,629T で 2 月比 13,903T 増加。（7 ヶ月連続増）。韓国材メインで、53,710T。為替円安下、輸入量は増加傾向継続。	1－3 月の小形棒鋼輸出量は 2.8 万ﾄﾝと前年同期比 ▲2.6 万ﾄﾝ。輸入量は 1.2 万ﾄﾝと前年同期比+0.4 万ﾄﾝとなった。 1-3 月の H 形鋼輸出量は 6.3 万ﾄﾝと前年同期比▲6 万ﾄﾝ、輸入量は 3.0 万ﾄﾝと同+1.5 万ﾄﾝとなった。
４．海外市場動向	2014 年 3 月度鋼管輸出量は継目無鋼管：5.5 万トン（前月比-8.1％）、溶鍛接鋼管：11.7 万トン（前月比-6.8％）。輸入量は、溶鍛接鋼管：1.9 万トン（前年同月比+43.3％）となった。	中国は1～2月の日当たり平均粗鋼生産量が221.7万ﾄﾝとなり、過去最高だった昨年2月の220.8万ﾄﾝを上回った。3月の輸出量も前年同月比28％増の676万ﾄﾝと高水準。 韓国は自動車輸出の拡大に支えられ粗鋼生産量も528万ﾄﾝと3カ月連続の増加となった一方、輸入については中国材の入着が止まらず169.7万ﾄﾝと4カ月連続の増加となっている。 タイは政情不安の長期化を受けて国内経済の縮小傾向が続いている。主要産業である自動車の2月の生産台数は前年同月比24.3％の大幅減少。2月は建築関係中心の鋼材生産量は前年同月比増加したが、半製品や熱延鋼板類の輸入は前年同月割れが続いている。 米国は3月の経済統計に明るさが見えてきたことを踏まえ主要需要産業である自動車の販売で3カ月ぶりに前年同月を上回った。2月の粗鋼生産は前年同月比0.1％の微減であったのに対し、鋼材輸入は同29.6％と高水準にある。	現代製鐵、ポスコと厚板ﾐﾙ能力増。今年度より本格稼働。東アジアでの需給は緩和傾向。	東南アジア：今後共インフラ関連を中心とした建材需要は底堅い見通しなるも、足元の引合は盛り上がりに欠ける状況。又、中国における鋼材生産の過剰感は当面も改善の見込み無く、鋼材市況の上昇機運は期待しにくい状況。 北米：経済の回復基調に伴い、北米からの形鋼・棒鋼類の引合は改善傾向に有り。
５．トピックス	油井管：米A/DのPreliminary Determinationは韓国勢0%、市場に衝撃を持って受け止められた。動きは全体として堅調。 ラインパイプ：国内需要が引き続き旺盛にて、日本ミルは素材不足が続いている。今期も国外ミルの価格が下がっているのに比して国内は高値維持の模様。			

鉄鋼流通問題懇談会　メーカー発言（2014年5月）

発表者 ＼ 発表項目	メーカー ＪＦＥスチール
１．需給動向（景況感）	・　日本経済は回復基調を維持している。自動車販売・家電出荷などに消費税増税前の旺盛な駆け込み需要も見られ、景況感改善の動きが広がっている。ただし今後の継続した個人消費の動向については、見込まれる反動減に対し政策効果による景気底上げがどの程度効果をあげるかが焦点となる。 ・　３月末普通鋼メーカー・問屋在庫は５６７万トンと形鋼・鋼矢板を中心に前月比▲１．２％と２ヶ月連続の減少。　同薄板３品在庫は４１１万トンと前月比＋２．９％増となったが在庫率では２．０ヶ月と前月比▲０．３ヶ月となった。同厚板シャー在庫は３８万トンと前月比▲１．３％減となった。 ・　国内の３月の粗鋼生産は前年同月比＋２．８％の９７２万トンと７ヶ月連続の前年比プラスとなった。３月の普通鋼鋼材国内出荷は前年同月比４．４％増の４５０万トンと９ヶ月連続で増加した。一方で、輸出向け出荷は、前年比１２．０％減の２３５万トンで４ヶ月連続の減少となった。 ・　１３年度粗鋼生産は前年度比３．９％増の１億１１５０万トンと３年ぶりの１億１０００万トン超えとなった。 ・　経産省生産計画は１４年度４－６月は２７７０万トンであり、国内の堅調な需要環境をうけ前期（１－３月）比＋０．５％の高水準を維持する見込みとなっている。
２．需要産業動向	〔建　築〕３月新設住宅着工戸数６．９万戸（前年同月比－２．９％減）。１９ヶ月ぶりのマイナス。消費税増税前の駆け込み需要一服で踊り場にさしかかるが、技能労働者不足が顕在化しており今後の伸び悩みが懸念される。 〔自動車〕３月国内販売７３．４万台（前年同月比１７．８％増）。７ヶ月連続のプラス。 ３月完成車輸出３８．６万台（〃０．６％減）。４ヶ月連続のマイナス。 ３月四輪車生産９４．０万台（〃１４．０％増）。７ヶ月連続のプラス。 〔造　船〕３月末手持工事量　２，７７２万ＧＴ（前月比１．１％増）。４ヶ月連続のプラス。
３．輸出入動向	〔輸出〕３月の全鉄鋼輸出は、３８７万トン、前年同月比５．０％減と７ヶ月連続の減少。１３年度は４２４８万トンの実績となり東南アジア向けを中心に前年度比で３．０％の減少となった。 〔輸入〕３月の普通鋼鋼材輸入量は、前年同月比５７．６％増の４７万トンと５ヶ月連続の増加となった。１３年度合計では１３７万トンと前年度比＋７．５％増となったが　４半期ごとでは１０－１２月が前年度比７．７％増、１－３月が同４６．６％増と至近の増加傾向については引き続き注意が必要である。
４．海外市場動向	海外では、３月の世界粗鋼生産（６５カ国）は、前年比２．７％増の１億４１３４万トン となった。１４年 1－３月期は、４億０５６８万トンと暦年で４年連続増となった１３年の１５億５８２５万トンを上回るペースで推移している。特に中国粗鋼生産は３月７０２５万トンと前年比＋６．０％の増の過去最高数量となった。中国からの鋼材輸出についても１４年１－３月期は１８３３万トンと前年同月比＋２７．０％と大幅な伸びを示している。中国市況については強い需要の後押しによる反転期待も、供給過剰状況により底ばい基調が継続している。その他需要面においてはとりわけタイの政情不安による本邦鉄鋼輸出への影響が懸念される。 世界の鉄鋼需給の供給過多の状況には変化なく、厳しい競争は継続していくものと想定している。